

オリジナル「M10」大量入荷情報！

JSC 貿易部ニュース 中国編

春新緑の季節となりました。如何お過ごしでしょうか。

さて、上海でのロックダウンに見られるように、国内各地で新型コロナ感染再拡大による影響が出ている中国。幸いにも、石材の生産工場が集積する福建省においては、加工や検品、工場から港までのトラック輸送といった部分については通常に近い状態に回復しています。（※4月27日時点）

しかしながら、世界的なコンテナ物流の混乱は依然続いており、今回の上海港封鎖の影響も加わり、石材製品の積出し地である廈門港も大きな影響を受けています。

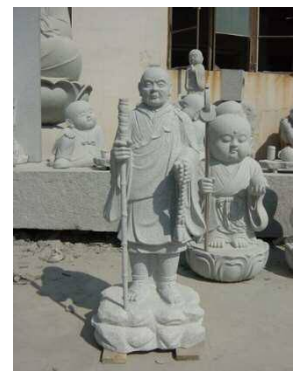
昨年実績で世界第13位のコンテナ取扱量（年間1240万コンテナ）を誇る廈門港。コンテナ船が列をなす入港待ちの状態が続いており、また荷役作業も追いつかないということで遅延状態が慢性化しています。



皆様には大変ご心配をおかけしておりますが、引き続き、納期に関しましては余裕を持ってご対応いただきますようお願い申し上げます。

さて、最近ではコロナ関連の話題ばかりでしたので、本号ではガラリと話を変えて来年2023年に御生誕1250年を迎え弘法大師空海（お大師さま）のお話をさせていただきます。

弘法大師空海と言えばご存知のように、日本に真言密教をもたらし、世界遺産にも登録されている高野山を開いた真言宗の開祖です。





JSC 貿易部在籍 25 年以上のわたしの歴史の中で、観音様や阿弥陀如来様、お地藏様といった仏様関連を除く、実在した人物の石造彫刻品部門（そんな部門あるの！？）で、最も多く関わらせていただいたのが、この「弘法大師」像でした。

今日でも、全国の石材店様からたくさんの見積依頼や写真資料の提供依頼など頂戴します。

そんな「お大師さまに」に関するエピソードに触れるにつれ、とんでもない偉人だったのだと、今さらながら思う次第です。

804 年、弘法大師空海は留学僧として遣唐使の一行とともに「唐」を目指し、一か月以上も荒波の中を漂流、一緒に出発した 4 船のうち、2 船は遭難というまさしく命がけの旅路の末に目的の地に辿り着いたわけです。

その際、漂着した場所はどこだったかご存知でしょうか。

なんと、私たち石材人に馴染みの深い福建省福州だったので



福建省福州赤岸村には、写真のような霞浦県人民政府と高野山真言宗総本山金剛峯寺が共同で建立した「空海入唐之地-赤岸」の記念碑があります。

遣唐使は漂着した後、赤岸村の人々に助けられ、大変お世話になったようです。

2022 年現在、1200 年以上もの時を経て、同じ福建省で「弘法大師」像をはじめ、多くの日本向け墓石製品が作られている事実。非常に感慨深いものがあります。

日中の文化交流が末永く続くことを心から祈っております。

さて今月の石のお話です！

新型コロナの影響で採掘が一時止まっていた「M10」。採掘作業再開後、中国だけでなくヨーロッパ各国へも輸出され、原石の取り合いが続いていた大人気石種ですが、この度、弊社のパートナー工場に 100 m³近い原石が入荷致しました！



早速、崇武事務所の検品員に原石の品質を調査してもらいましたところ、「ムラもなく非常に綺麗な原石です」とのこと。



現地を訪問して情報収集ができない現況下でも、自社の社員の目を見た各工場の正確な情報を入手できるのが、現地に大勢の社員がいる当社の強みでございます。

近頃は、「新 M10」と称して類似した色の黒いタイプの「M10?」や、色の薄い「M10?」を使う工場もあるようです。

しかし、当社の「M10」は実績のある「オリジナル M10」でございます。

石目も揃った「オリジナル」、是非ご注文をお待ちしております！

では、今月も最後までお読みいただきありがとうございました。

さわやかな五月晴れの空の下、皆様の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

2022/05/01